

こいずみ

小泉 あつし

報

香川県議会議員・無所属・議会/県政報告

2023
- 第一号 -



- 現在 小泉あつしが所属する委員会
- 総務常任委員会
- デジタル田園都市推進特別委員会
- 広報委員会

小泉あつし7つのアクション

- ① 福祉・介護__誰もが自分らしく生きられる環境づくり
- ② 公共交通__どこに住んでいても安心して暮らせる地域づくり
- ③ 産業__島の魅力を活かした、地場製品のブランド力の強化
- ④ 子育て__人口減少に歯止めを！子育て支援の徹底！
- ⑤ 教育__誰もが共に学べるインクルーシブ教育を！
- ⑥ 防災__オール香川体制をつくり、点ではなく面で防災体制を整備！
- ⑦ 環境__電力の地産地消、海洋プラスチックごみゼロに向けて

小豆郡から

県政に新たな風を！

ここ香川県、瀬戸内の美しい島々は世界に誇れる美しく自然に溢れた場所です。県民のみなさまが誇りを持って、赤ちゃんからお年寄り、そして障がいの有無関係なく、誰もが安心して生涯を送れる社会を創ります。地元に着し、みなさまの想いをしっかりと受け止め、一人ひとりの声を県政に届けます。私の強みは「行動力」。常に学ぶ姿勢を忘れず、前へ前へと進み続けます！

県議会ってどんなところ？ - 意外と知らない県議・議会の仕事を少しだけご紹介します -

県議・議会の役割について

住民を代表する 41 人の議員で構成される香川県議会は、住民の代表として地域のために、また、住民福祉の向上に努めるよう、県民の意思を最終的に決定する役割があります。

※最近では、議員に立候補する住民が少なくなってきており、これは、全国的な傾向であるといわれています。

議員は条例を提案したり、改正したり、廃止することができます。香川県では議員と執行部（県職員）とが協力し、条例の内容について話し合い、条例の案を作るケースがあります。

※議員だけでは、行政の複雑化や起案形態の専門性などから、提案権があってもそれをフル活用することはなかなか難しい状況です。

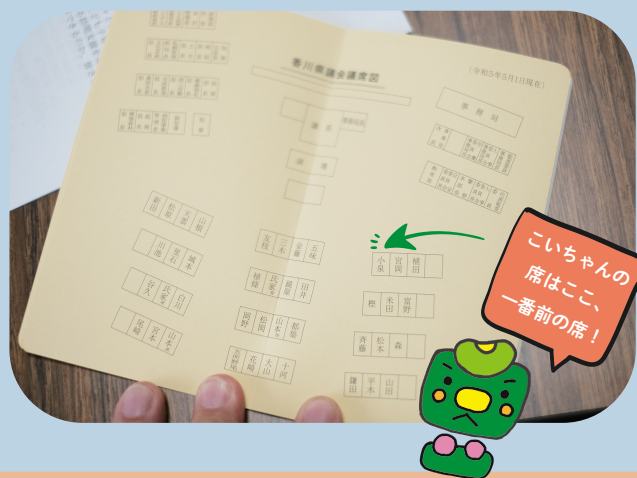
また議会は、主権者である住民に代わって執行機関を監視し、執行機関の独走をチェックする機関でもあります。執行機関が真に県民の意思を反映した行政を行っているかどうかを監視するなどの役割を果たしています。

議会の重要な役割のひとつとして、国の各省庁や国会などに、公益に関することについて意見書を提出することができます。

議会は、住民の代表として住民の総意を背景に意見書を出すことで、民意を国に伝えることができます。

6月の議会スケジュール

- 6/19(月) 本会議 開会 提案 理由説明
- 6/20(火) 議案調査
- 6/21(水) 本会議 代表質問
- 6/22(木) 6/23(金) 総務委員会
- 6/26(月) 6/27(火) 環境建設委員会
- 6/28(水) 6/29(木) 文教厚生委員会
- 6/30(金) 7/3(月) 経済委員会
- 7/4(火) 議案調査
- 7/5(水)-7/6(木) 本会議 一般質問
- 7/7(金) 各常任委員会
- 7/10(月) 委員長報告 討論 採決 閉会



4つの常任委員会について

香川県議会には次の4つの常任委員会があります。すべての議員は4つの常任委員会のうち、どれかひとつに所属しています。

定数10人

環境建設委員会

2つの部局：

- ・環境森林部（脱炭素、海ごみ、林業、産廃など）
- ・土木部（インフラ整備など）の事業について話し合います。

定数10人

経済委員会

3つの部局：

- ・商工労働部（産業活性化、働き方など）
- ・交流推進部（地域公共交通、観光など）
- ・農政水産部（農業、水産業など）について話し合います。

定数11人

総務委員会

4つの部局：

- ・政策部（政策立案、移住促進、水資源、女性の活躍、文化芸術、デジタル化など）
- ・総務部（私立学校、県庁の人材確保、人権問題、広報、国際交流など）
- ・危機管理総局（防災対策など）
- ・警察本部（防犯、交通指導など）の事業について話し合います。

定数10人

文教厚生委員会

2つの部局：

- ・健康福祉部（介護、福祉、子育てなど）
- ・教育委員会（学校、県立アリーナなど）の事業について話し合います。

こいちゃんが所属するのはここ、総務委員だよ！



小泉あつし事務所のご案内

草壁にある小泉あつし事務所は住民相談、県議の仕事の説明、住民の憩いの場として開放しています。

また定期的に報告会、住民相談会なども行っています。活動報告などの資料もあるので、県議の仕事が気になる方、ご意見などある方、どなたでもお気軽にお越しください。人々が集まる場所になれるよう、温かい空間を作っていけたらと思います。



小泉あつし事務所

〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町1053-3

TEL：070-9229-5202 開所日：月・水・金 9:30~12:30

- 次回議会報告会のご案内 -

10/7(土) 10:00~12:00 ぜひご参加ください！

小泉あつしの質問

所属する総務委員会では、政策部、総務部、危機管理総局、警察本部について質問が可能です。

この度、小泉あつしは政策部と総務部に関わる質問をいたしました。

1 移住・定住の促進について

(小泉あつしの質問)

本県の人口は減少が続いており、地域を支える担い手の不足や地域の活力低下が懸念されています。地方移住への関心が依然高まる中、移住定住施策の実施により、人の流れを創り、人口減少の流れを変え、転入超過へと舵を進めることも可能と考えます。移住に関心を持つ人の割合は、2020年以降、少し先進的な層で移住への関心が高まっていることも加え、テレワークの実施率も急伸びています。子育て政策とマッチした形で、移住・定住の促進に注力する観点も、県で100万人計画の目標達成のために重要と思われる。現在の県の移住・定住促進の政策を教えてください。

(政策部長の回答)

移住・定住の促進に向けては①情報発信、②住まい・仕事のマッチング、③定住のサポートの3つの柱を軸に施策を展開している。
①情報発信：各所に移住・交流コーディネーター配置して相談対応を行い、各地で移住フェアを実施。各種ガイドブック、パンフレット、移住ポータルサイト「かがわ暮らし」などで本県の魅力を発信している。
②仕事や住まいのマッチングの面では、空き家バンクによる住宅のあっせんや空き家の改修補助などに市町と連携して取り組んでいる。住まいの総合相談窓口の「住まいのコンシェルジュ」を設置。不動産事業者を「住まいの応援隊」に認定し、移住希望者の希望に沿った相談対応を行っている。移住前に本県でテレワークを体験できる「お試しテレワークに対する助成」を行っており、実績も上がっている。
③定住のサポートの面では、市町と連携して移住者交流会を定期的に開催。オンライン「コミュニティ」がかわ暮らし応援の輪を昨年10月に開設し情報交換し合える環境を整えている。

(小泉あつしの質問)

①移住に関心層への広報については、是非各種SNSを効果的に活用し関心を集めていただきたいと思う。
②広報のターゲットを子育て世代・若い世代にしほり、ホームヘルプやパンフレットのデザインや色調をすべて若者や子育て世代を意識することでより効果的に対象者に伝わるのではないかと。
③空き家バンクについては、住まいたい物件の写真を多く掲載する、動画で物件を紹介するなど、ユーザー目線を増やし情報を増やしてはどうかと思う。空き家の登録件数を増やすことも大切であるが一軒一軒の物件の状態を詳細に伝えることによって、物件を探す人の満足度を高めることが可能になるのではないかと。

(政策部長の回答)

① SNSの活用については、従来から、各種SNSで情報を発信している。
② 本県の年齢別の移住者層は、20代が33.3%、30代が19.2%、若者世代が移住者の過半を占めていることから、若い年齢層を主なターゲットとして発信することを掲げている。若者受けするデザインでロゴマーク制作しており「トカイナカがわ」というキャラクターと一緒にPRしている。
③ 空き家バンクについては、本年3月末で628件の物件を掲載し毎年400件程度成約されている。遠隔地からネット情報として多くの写真が見ることが望ましいが、現在のシステム上では最大6枚の写真掲載に留まっている。独自の空き家バンクを持つ市町の中には、写真掲載枚数が多い市町がある一方で、防犯の関係で外見しか写さない、家の中で詳細に写すのはどうかといった考え方の市町もある。

いずれにしても、写真が多いほど移住希望者が物件をイメージしやすく、物件購入の判断にもつながる考えられるため、現在、空き家バンクに掲載できる写真枚数を増やせるよう、検討しているところであり、今後対応していきたい。動画掲載については、システムが対応しておらず、直ちに要するいくことは難しい状況にあるが、個別の依頼があった際にYouTubeで個別に動画を提供することもあるので、そういった対応で市町と連携していきたい。

2 外国人が暮らしやすいまちづくりについて

(小泉あつしの質問)

香川県人口が1999年の103万人をピークとして減少に転じて、2023年4月1日現在の人口は92.7万人となっており、現状のまま、何ら対策を講じなければ、今後、人口減少は加速度的に進むとされ、2060年には、本県の総人口は66万人程度にまで減少すると推計されている。2020年の3月に改訂した「かがわ人口ビジョン」では、2060年に人口77万人を維持するという目標を掲げており、人口77万人を維持することができ、あらゆる時代、世代の人口が均等に安定した人口構造となり、子供から高齢者まであらゆる世代が笑顔で暮らしやすくなり、安心して、働き、結婚し、産み育て、多くの人が集う活気ある香川県を描くことができると書かれている。人口の社会増減をプラスに転換するためには、様々な施策が考えられるが「外国人が暮らしやすい香川県をつくる」という面でも、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを進めていく必要があると伺っています。

2022年12月時点の県内における在留外国人数は15078人と本県の人口の1.6%程度ではあるが、2007年の8708名と比べると1.6倍に増加しており、今後も外国人の住民は増加する傾向は続くものと思われる。小豆島の状況についても言及すると、生産年齢人口という視点で、20代の小豆島の在住者の数を見ると、日本人883名、外国人69名となっており、約8%が外国人の在住者となっている。

外国人住民が暮らしやすいまちづくりに取り組み、より多くの方に本県を選んでもらうことで、香川の転入人口を増やす一助となることと考えている。

現在、本県においては、外国人への共済推進のためにこんな施策をとっているのか、伺う。

(桑原知事公室長の回答)
少子高齢化と地域の国際化が急速に進展する中、在留外国人の増加は続いており、今後も外国人住民は増加していくと考えている。こうした中、県が令和3年11月に策定した、「新かがわ多文化共生推進プラン」では、外国人住民を支援対象として掲げる視点に加え、新たに日本人住民とともに、地域社会の担い手となつて、地域活性化につなげるという視点を追加し、地域を支えていく存在として位置付けている。

(桑原知事公室長の回答)

令和3年度は綾川町、令和4年度は小豆島町をモデル地域として、地元と連携して日本人住民と外国人住民との橋渡し役となる方々が、「多文化共生のまちづくりサポーター」として26名養成された。綾川町では、昨年度このサポーターの方々の企画による、さまざまイベント開催、企業や日本語学校とともに地域住民と協力して行う防災訓練、清掃活動、食文化の交流などの取り組みを行ったところであり、今年度はこれを県下全域に横展開を図っていくことで取り組んでいるところである。

今年度の新規事業として、外国人の意見を聞いて、多様な考え方を、発想を、地域の活性化に積極的に活用する「外国人住民会合」を開催するほか、外国人住民の方が社会生活に必要な日本語能力を身につける、地域社会の一員として「コミュニケーション」をという、地域日本語教育体制の整備を図っていくと考えている。今後は外国人住民の方々と日本人住民がともに安心して生活、活動できる環境整備に取り組む。暮らしやすい魅力ある地域づくりを進めていくために、国籍や民族を超えて、互いの文化の違いを認め合いながら、多文化共生の社会づくりに取り組んでまいります。

(小泉あつしの質問)
2019年、本県が実施した外国人住民アンケートにおいて、「災害などの緊急時に不安がある」、「少し不安がある」と回答した方は84%おり、災害などの不安をなくすために必要なこととして、「避難場所や避難経路の案内表示をわかりやすくする」、「緊急時に多言語で放送・誘導を行う」、「緊急時対応用の多言語パンフレットを配布する」という声があったので、これらの声を、反映していただければと考えている。

また、今年度からの新規事業である「外国人住民会合」では、複数の外国人住民が参加されることになると思うが、県内には外国人が15078名住んでおられるので、より多様な意見を聞き、在住者の声を幅広く届けられるように、例えば、住民会合で話し合われるテーマについて、県のホームページを通じて、広く県内に住む外国人の方の意見を募集するなど、可能な範囲で、多くの方の声を聞ける方法をとっていただきたい。

(桑原知事公室長の回答)
外国人住民の方々への緊急時の対応についてであるが、外国人住民の方々は、日本の災害への知識や、そもそも日本語能力が十分でないこともあり、災害時に適切な避難行動ができないということが懸念されます。このため県では既に実施している外国人防災訓練に加え、香川県国際交流会館で香川県災害時多言語支援センター設置訓練を行い、災害時に行政等からの情報を外国人住民の方に幅広く発信するよう体制を整備したところである。また、同センターの通訳ボランティアに対し、災害時等の外国人対応をテーマとした研修を予定しています。また、昨年度、避難所での外国人住民のニーズな

どを収集する「外国人地域防災リーダー」を18名養成し、今年度はこのリーダーが地域の自主防災会や市町職員の方々と、外国人住民を含めた避難所運営訓練を行い、スキルアップを図ることとしている。

わかりやすい情報発信については、外国人住民のための防災ガイドブックを作成し、9ヶ国語に対応したホームページへの掲載、今まで作成してきた防災ガイドブックを電子書籍化して検索しやすくするという取り組みも行う。こうした取り組みを通じ、災害時に、県内に住む外国人が日本人住民と同じように、必要な情報を得て、速やかに避難し、安全に過ごすことができるよう、取り組んで参りたい。

外国人住民会合については、今年度の新規事業の内容の一つであり、「外国人住民が有する多様な考え方や発想を地域の活性化に積極的に活用することを通して外国人との協力によるまちづくりを実現しようとする」ものであり、御提言いただいたように、幅広い層から多くの声を聞き、多様な包摂性のあるまちづくりを目指していくことがまさに本事業の目的であるので、ホームページでの意見募集を含め、検討して参りたい。(小泉あつしの質問)

より多くの方が訪れやすい、そして暮らしやすいまちづくりをすることで、今後観光でも多くの人にきていただけたらと思う。技能実習生や働く人たちが暮らしやすいまちづくりに影響していただくと思う。多様な面でも、そういった施策が必要になってくると思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

(小泉あつしの質問)

6月定例会を終えてー
今回、県議会議員になって初めての定例会を無事終えることができ、まずはホッとしたと同時に、各日程のタイムスケジュールや、動き方など、戸惑う場面も多く、さまざまなることを学ぶ必要があるという実感を改めて持ちました。

また、無所属の議員として、自分かどの議案に賛成するか、反対するか、自分の考えを表明できることはありがたいことだと思っております。香川県はもとより、「小豆島のためにやるか」という視点で自分の意見を表明していく所存です。

最後に、定例会の中での「質問」がとても重要なやり取りだと思えました。自分は今回、一般質問はなく、総務委員会(の管轄内)でのみ質問の機会を得られましたが、その質問を作る中で、執行部の方々と話し合う時間を確保してもらえます。何を質問しようとしているかを相談し、それを質問にした方がいいかどうか、質問にするならどういう内容にするか、その話し合いの中でどう要望を出し、あるいは提案し、執行部の方々にしっかりその必要性を納得してもらい、対話できるかが、想いをカタチにする上極めて重要な工程だと思えました。各会派の代表質問や各議員の方々による一般質問も大変学びの多い内容ばかりでしたので、自分か特に関心ある内容について公式ホームページ内のブログで、知りたいと思っています。ぜひお時間のある時にご覧になっていただければと思います。

私の一般質問は9月定例会になりますが、範囲は県政全般に及ぶので、前述したように各部局と話し合ってから、その中で最大限柔軟性のあるものにしていきたいと思っております。

＊文字数の関係の一部を抜粋して掲載しています。全文はホームページにて公開いたしますので、詳しくご覧になりたい方はぜひホームページをご確認ください。

「未来は僕らの手中」みんなの声で明日を変えよう！

- ご挨拶 -

この度、小豆郡のみなさんに応援していただいたおかげで、香川県議会議員として活動させていただいております。県議として香川の発展に尽力することはもとより、小豆郡のみなさんの代表者として

「**小豆郡のためになること**」を模索していきます。

小豆郡のために私がやりたいことはいくつもあります。

- ・福祉が充実した島で、**何歳になっても安心して暮らせる環境**をつくりたい
- ・障がいがあってもなくても、**自分らしく生きられる地域**にしたい
- ・**「行きたい時に行きたいところへ」**行けるよう地域公共交通をもっと使いやすくしたい
- ・島の魅力を活かした産業を活性化し、**人が集まる島**にしたい
- ・子育て支援に力を入れ、**安心して産み育てられるまち**へ
- ・多様な子どもたちが共に学び、生きる力を培う**インクルーシブ教育**を実現したい
- ・災害が起きた時に、速やかに地域を支援できる「**オール香川体制**」をつくりたい
- ・**再生エネルギー 100%**を目指し、電力の供給を自立させたい

これらの目標を実現するため、まずは今の県政の方針や政策を学ぶ必要があります。現状をしっかりと把握し、実現するにはどうすればよいか、どこに働きかける必要があるのか、どうやって力を合わせればよいか、を勉強する時期だと思っています。

上記の「実現したいこと」以外にも、みなさんの生活に県政が関わっていることはたくさんあります。みなさん自身の生活をよりよくするために県政にどんどん参加してほしいと思っています。県としてできること、できないことを多くの方々に知っていただくことで、ご自身の声をどうやって反映させるのかを学ぶことになり、それがみなさんの生活を底上げすることにつながります。私の若さを活かして何でも幅広く勉強し、住民のみなさんの声をしっかりと代弁してまいりたいと思っています。

そして、小泉あつしの原点であり、初心である、「**困っている人の声を届ける**」

というスタンスを忘れず、か弱い声、小さい声に寄り添い、そのために活動し続けることを誓い、ご挨拶の言葉とさせていただきます。



小泉あつし プロフィール

昭和57年 9月20日 京都府京都市生まれ
平成13年 京都府洛北高校 卒業
平成18年 立命館大学法学部 卒業
平成24年 青山学院大学大学院 法学研究科修了
平成25年 障害福祉サービスに5年間従事
平成29年 小豆島へ家族で移住
平成30年 あすなろの家 職業指導員、
せいけんじこども園 保育士
令和2年 児童福祉サービス
アースハーモニー管理者
令和5年 香川県議会議員 初当選

趣味：DIY、登山、家庭菜園、断食、英会話、ピアノ
ギター、SUP、読書、子どもと遊ぶこと、カラオケ
好きな言葉：上善は水の如し

あつしの

約束

1

汗をかき、地道に活動する

2

多様な考えを尊重する

3

小さな声にも耳を傾ける

↓ HP・SNS・お問い合わせはこちらから ↓



ホームページ



facebook



instagram



X(Twitter)



お問い合わせ

公式キャラクター
まめっぴー

小豆郡の「豆」から生まれた
まめっぴーです！
こいちゃん（小泉あつし）と
一緒に県議会や香川の未来
について考えていこう！

●小泉あつし事務所 〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町1053-3
TEL：070-9229-5202 開所日：月・水・金 9:30～12:30

* 臨時でお休みの場合があります。詳しくは事務所掲示板の
カレンダー・SNS告知などをご確認ください。